

事業所名

フレンズベース梅津校

支援プログラム

作成日

令和7年

9月

26日

法人（事業所）理念	「視覚あそび」「体幹あそび」「自立れんしゅう」の三大療育を軸に掲げ、当所独自の療育を実践することで、日常生活の中で目に見える変化を児童本人にも保護者にも実感していた。保護者と情報を共有し協力を得て行う「協育」を理念に、地域の方々や保護者と一緒に子どもの豊かな心を育てていくことを目指す。				
支援方針	視覚あそび(個別・集団療育)…情報をしっかりと目でとらえるため、ビジョントレーニングを実地。 体幹あそび(集団療育)…身体の軸をつくり呼吸を深くし脳を活性化するため、理論に基づいた多数のトレーニング方法をスタッツと一緒に遊びながら行う。 自立れんしゅう(集団療育)…社会での自立に向けて、身の回りのことが自分でできる、生きる力を育てることを目標に、「食べる」をテーマに繰り返し練習する。				
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	クッキング・調理を通し、季節感や日本の伝統を知ったり、様々な食材や調味料に触れられるようにしている。また、調理活動では、自分たちで考え判断しながら食材を切ったり調理して味付けをしたりすることで達成感を味わい、社会への自立に向けた力を養う。自分たちで作ったお料理をみんなで食べることで、苦手なものや初めての食べ物に挑戦できる心を育てていく。また、日々の療育の総まとめとして、公園や様々な施設へのお出かけ活動を行い、順番を守る、交通ルールを守って道路を歩くなど、日常生活に必要なスキルを養い実践する場になっている。			
	運動・感覚	視覚あそびでは、「跳躍性眼球運動」「追従性眼球運動」「目と手の協応」等を意識した課題を1：1や集団で取り組む。感触あそび・体幹あそびでは、触覚・視覚・前庭感覚・固有感覚等の発達の土台を積み重ねていく。その上でダイナミックな動きや繊細な動きなど様々な動きを取り入れたあそびを行うことで、体幹の筋力、体のコントロール、平均感覚などを養っていく。工作などの微細運動も併せて行い、手指の操作性や集中力向上なども養っていく。			
	認知・行動	物事の始まりと終わりを重視し、来所時・退所時、食事の開始時・終了時など、場面ごとにご挨拶を取り入れて気持ちの切り替えを体感しながら学べるようにしている。また、視覚支援を活用しながらスケジュールや時間を意識して行動する、気持ちを切り替えて次の行動に移るなど、日常生活を送る上で必要な情報を取り入れながら自分で判断し行動する力を養っている。日常生活に必要な様々な概念の理解等を手助けしていく。成功体験を積み重ね、「なぜ？」と感じたり、「やってみたい」という思いを育むことができる場にする。			
	言語 コミュニケーション	子どもたちの興味関心に寄り添い、相互的なやり取りを通じて自然に言葉やコミュニケーションの発達を促していくことができるようにしている。言語コミュニケーションだけで補えない場合は、絵カードやマカトンサインなど別の手法でコミュニケーションができるようにしている。ヘルプの発信力を高め、困ったときに解決する力を養っていく。理解の支援では、口頭指示のみでなく、視覚的支援を合わせて行うことでできることを増やすことができるように支援する。			
	人間関係 社会性	様々な活動の中、「自分の思いを伝えること」「相手の思いを聞く」「意見のすり合わせ」など、コミュニケーションスキルの向上やソーシャルスキルの確保ができるようにしている。お友達や大人など様々な人との人間関係を大事にしていける場所とする。気持ちのコントロール、他者視点の確保、社会ルールなどソーシャルスキルの確保ができる場所にしている。			
家族支援	ペアレントトレーニング、保護者への個別相談、関係機関とのケース会議		移行支援		関係機関との連携会議、医療機関・リハビリ施設での施術の見学
地域支援・地域連携	地域散策		職員の質の向上		年間研修計画、外部研修、事業所会議、療育会議
主な行事等	夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、お餅つき、系列事業所同士での交流会				